

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	4073600308		
法人名	社会福祉法人 豊資会		
事業所名	グループホーム 花梨		
所在地 (電話番号)	〒811-3111 古賀市花見南2-14-15 (電話) 092-940-7203		
評価機関名	財団法人 福岡県メディカルセンター		
所在地	福岡市博多区博多駅南2丁目9番30号		
訪問調査日	平成21年7月15日	評価確定日	平成21年8月27日

【情報提供票より】(H21年7月1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成15年4月10日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	9 人	常勤 9人, 非常勤 0人, 常勤換算 9人	

(2) 建物概要

建物形態	併設 / 単独		新築 / 改築	
建物構造	鉄筋コンクリート 造り			
	2 階建ての	2 階 ~	2 階部分	

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	70,000 円	その他の経費(月額)	円	
敷金	有 (円) 無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有 (120,000円) 無	有りの場合 償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	200 円	昼食	350 円
	夕食	350 円	おやつ	100 円
	または1日当たり 円			

(4) 利用者の概要 (7月1日現在)

利用者人数	9 名	男性	2 名	女性	7 名
要介護1	1 名	要介護2	3 名		
要介護3	0 名	要介護4	4 名		
要介護5	1 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 86 歳	最低	75 歳	最高	94 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	江藤歯科、医療法人豊資会加野病院、やまびこ診療所
---------	--------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

この地域で長年医療を提供してきた医療機関を母体として「迅速・正確・気配りをモットーに自分や家族がこころから利用したいと思える医療・福祉サービスを提供する」という法人理念のもと、6年前に開設されたホームである。静かな住宅街に位置し、1階にデイサービスや機能訓練室も併設している。多職種との医療連携もとれており、「地域との関わりの中で、その人らしい生活ができるように支える」という事業所独自の理念を掲げ、利用者にとって「何が必要か」「どうすべきか」を職員全員が主体的に考え、意見を述べ合って日々のケアの中で実践している。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>前回の課題として挙げた「地域とのつきあい」「プライバシーの確保の徹底」「災害対策」について、運営推進会議でも協議し全員で改善にあたった。とくに「災害対策」では職員が積極的な姿勢で取り組み、消防署の信頼を得ている。他の2つの課題も前進させることに繋がっている。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>管理者の交替の時期と重なり、マイナスをプラスに変えて全員が1項目ずつ利用者本位に考え、サービスの向上に向けての真剣な取り組みととらえて、自己評価に参加している。</p>
重点項目	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)</p> <p>ホーム行事の報告や市からの行事案内、外部評価報告の協議などを行っている。また本年度から全家族が委員として参加し、毎回全員出席をめざして本音を出し合い、2ヶ月に1回の運営推進会議が利用者へのサービス向上に反映されるよう努力している。</p>
重点項目	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部8,9)</p> <p>玄関にご意見箱を設置しているが、あまり利用されないのが現状である。年2回開催されている「家族会」を家族の方だけで運営していただけるよう援助し、運営推進会議と家族会を機能させて家族の意見がよりサービスへ反映されるよう努力している。</p>
重点項目	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>地域行事であった「童謡教室」が3月で終了し、利用者さんが寂しがっているため、事業所が交流の場となるよう小さい子どもたちが訪問してくれる形で地域との交流継続を考えている。また、「お茶を飲みに来て下さい」「気軽に立ち寄ってください」といつも声をかけており、これからさらに連携が強くなっていくことを期待している。</p>

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「自分や家族が心から利用したいと思える福祉サービスを提供する」という母体法人の理念を具体化して、「地域との関わりの中で、その人らしい生活が継続できるように支える」という事業所独自の理念を管理者・職員全員でつくりあげている。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	1日3回の申し送り時に理念を唱和し、それを具体化した「介護10か条」を確認している。また、1日1項目ずつの目標実現をめざして「ぞうさんベーシック30か条」も作り、1日ずつ確かめている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会の一員として定期的に公民館活動に参加し、3月で終了となった童謡教室の発展的な活動再開をめざし、施設長のお孫さんが通う幼稚園との交流を働きかけるなど、地域の一員としての存在が浸透してきている。ホームが2階に位置しているためご近所の方々が気軽にのぞいたり、立ち寄ることがしにくい構造であるが、日常的に声かけを行い、いつでも来ていただけるよう周知に努めている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	今回は管理者の交替期と重なってしまったが、それを活かして、職員一人ひとりが自主的に自己評価に取り組み、新旧管理者がまとめた。評価を活かすため、職員間で話し合っって課題を共有し、質向上に向けて取り組んでいる。		
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議は2ヶ月毎に開催され、本年度から全家族が委員になっていただいたことで、以前に増してご家族からの意見も活発に出されている。ホームの行事などの報告や外部評価報告及び市の地域行事を知らせてもらう内容で、介護の質の向上に活かされている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	毎月、市担当者へ入居状況報告の機会をつくっており、連携を深めている。また、包括支援センターを相談窓口として、市とともにグループホームネットワーク作りを始め、サービスの質向上に向けて共に取り組んでいる。		
7	10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	成年後見制度や地域権利擁護事業について、制度利用の必要な利用者もいることから、管理者および職員の勉強会を実施している。これからも研修を計画していく予定である。		
4. 理念を実践するための体制					
8	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	日々の出来事は、各個人毎に毎日記録されており、面会時や様子が変わられた時は電話で話している。月1回は来月の予定や運営推進会議での議事内容などを盛り込んだホーム便りで報告している。		
9	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱にはなかなか意見は提出されない状況であるが、玄関に設置している。家族全員が運営推進委員であることから家族の意見を反映させた運営となるよう努力している。年2回、交流の場として「家族会」も開催されており、今後自立した会となるよう職員が援助し、さらなる家族の意見の反映をめざしている。		
10	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	馴染みの職員の異動や離職に際しては、事務的な引継ぎで済ませるのではなく、時間をかけて支援をしながらダメージを必要最小限に抑えられるよう配慮している。		
5. 人材の育成と支援					
11	19	人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を發揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	理念を具体化するために職員で考えたホーム独自の「介護10か条」に、利用者の人権の尊重を文章化している。また職員の募集、採用にあたっては性別や年齢制限は設けておらず、面接時に十分意見を伺い、働きたいという意欲を重視している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
12	20	人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	グループホームでは基礎教育を実施し、外部での研修に参加した場合は伝達講習を行うシステムがあり、認知症に関する教育をはじめ人権教育・啓発活動に取り組んでいる。		
13	21	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修計画に基づく定期的研修が確保されるとともに、職員は市や県での教育を積極的に受けることが出来るよう情報を共有している。県の派遣制度を取り入れ、工夫しながら希望に沿った研修が受けられるよう、さらに積極的に活用していく方針もすすめている。また、法人全体で職能給制度が採用され励みとなっている。		
14	22	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	福岡県グループホーム協議会に加入している。本年度から市内のグループホームネットワークが出来たことにより、地域の同業者との交流や勉強会が行われている。法人内グループホームとの交流に加えて、他との相互交流も身近なものとなり、サービスの質の向上へ繋がる取り組みとなっている。		
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
15	28	馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	お茶の時間に遊びに寄られることもある階下のデイサービス利用者や、泊まりを経験出来るショートステイの利用からの入所など、サービスをいきなり開始する例はほとんどない。ご本人やご家族が安心して馴染めるよう配慮している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
16	29	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は利用者一人ひとりが生き生きされているか、皆で情報交換をしながら、ご本人が力を発揮できるよう支えている。利用者の指示通りに手伝い、様子を見守るだけで、窓辺やベランダに季節ごとに野菜や花が植えられるなど、職員が教えられる場面が日常的にある。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1.一人ひとりの把握					
17	35	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	表情や言葉の中で、うれしい時の反応を見逃さずケアに組み込み、ミーティングで皆に伝え、ご本人の思いや意向の把握がされている。センター方式の良さを生かして何回もご本人の姿や気持ちを表現するなど、本人本位で情報を共有し検討している。		
2.本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
18	38	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	介護計画作成担当者は、情報を共有しながら担当職員に意見を聞き、ご本人やご家族、必要な場合は多職種参加のカンファレンスで話し合っ作成している。医療連携体制のもと看護師、PT、OT、管理栄養士等にも相談できる体制があり、ご本人がより良く暮らせるよう検討されている。		
19	39	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画に基づいてサービスを行う中で、利用者の状況を職員みんなが共有して随時検討している。計画に変更が必要な場合は、ご本人、家族とも話し合いを持ち新たな計画を作成している。		
3.多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
20	41	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	「洋服を買いたい」、「食事を自由な時間に摂りたい」、「夜遅くしか面会に来られない家族を受け入れて欲しい」、「絵を描きたい」、「野菜や花を育てたい」、「家に帰ってみたい」など一人ひとりの希望を活かした支援に取り組んでいる。		
4.本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
21	45	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医療機関への定期的な受診、訪問診療、投薬、歯科治療など適切な医療支援が行われている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
22	49	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重要事項説明書に重度化や終末期に向けた指針を明記し、入居時に説明して同意を得ている。重度により入院となられたケースでは、終末期をホームで過ごしたいと戻って来られ、元気を回復された経験をした。入所者に関してはいつもご本人、家族、職員全員で情報を共有している。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
23	52	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	言葉かけや対応に関して、職員一人ひとりが気をつけている。日中、部屋の鍵を中からかけておきたい方もあり、ご本人の希望を考え、暮らしぶりを保つように心がけている。トイレのドアを閉めての使用や、一人での入浴を希望される方は見守るなど、信頼関係を築きながらプライバシーの確保の徹底をはかっている。		
24	54	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	夜勤明けの退勤時や早出の昼休みに、畑仕事の手伝いを求められることもあるが、ご本人のペースに合わせた支援をしている。一人でホームから出て行かれる場合もさりげなく同行したり、散歩に連れて行ったりするなど、日々のその人らしい暮らしの支援が行われている。		
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
25	56	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	法人で栄養管理された配食サービスを利用しているので、配膳やテーブルセッティング、後片付けを職員と一緒に力に応じて行っている。テーブル毎に職員が加わり、会話をしながらの食事を楽しんでいる。また、おやつを利用者とともに手作りするなど、楽しみながら食事ができるように支援している。		
26	59	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	希望すれば毎日の入浴もでき、個浴を楽しまれている。介助が必要であればプライバシーに配慮しながら支援している。希望される方には、季節感のある入浴剤、菖蒲湯やゆず湯などを楽しめるよう支援している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
27	61	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	野菜づくりや絵、習字、キーボードの演奏、洗濯物たたみなどの役割を持ち、それぞれが力を発揮されている。「家に帰りたい」という願いを受けとめ、送迎を支援するなど、一人ひとりの生活歴や力を見つめた支援をしている。		「家に帰りたい」という願いを引き出した経験を広げ、その人の生活歴に沿って多様な楽しみごとや気晴らし、役割を見つけられることを期待している。
28	63	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	おしゃれ心を失わないで過ごしておられる入居者の「洋服を買いたい」という希望に沿って外出を支援するなど、一人ひとり違う希望に寄り添い、日常的な外出支援がされている。毎月1度の外食は楽しみとなっている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
29	68	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	2階建ての構造的な条件のために夕方から早朝は施錠されているが、日中は開放され居室もご本人の希望に任せている。		
30	73	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	職員がホームの図面を持参し、消防署に何回も足を運んでどんな訓練をしたいか、どんなことを注意するのかなどを伺った。当日体制も確認し、マニュアルを作成する等、消防署の信頼を得て主体的に対策を講じている。避難訓練も毎年2回定期的に行われ、避難場所も周知されている。非常食も給食部門管理で準備されている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
31	79	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養摂取量および水分摂取の管理については、グループホームで入居者ごとにチェックされている。摂取不足が懸念される場合は、栄養補助食品も提供され、摂食・嚥下困難があればゼリー食が提供されるなど法人の管理栄養士との連携が図られている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
32	83	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	それぞれの部屋が廊下に面する間取りである。季節感あふれる飾りや鉢、ソファやテーブルも置かれ、食堂の入り口に利用者さんの絵や俳句の習字が並んでおり、思い思いに落ち着いて過ごせる工夫がある。		
33	85	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には使い慣れた家具や馴染みの持ち物が置かれている。自宅ですべて使っていた鏡台を持ち込み満足されている方、今は袖を通すこともないが愛用していた柔道着を壁に飾っている方など、それぞれの思い出を感じて自分の家のように過ごせるように配慮されている。表札もご自宅で使用されていたものを持参される方もあり、工夫されている。		